



加藤なを子

活動レポート

発行：日本共産党・加藤なを子事務所 連絡先 藤沢市藤沢2-3-2
☎ 0466-25-4776 FAX 25-4761

コロナ対策

医療・介護現場に予算も人も増やす対応を

今、もつとも市民が求めて

いるのは、「コロナ感染症対策です。

先日、介護福祉士さん、若い看護師さんとお話ししました。「命を守る現場がないがしろにされている。」不安と疲労の中でぎりぎりの状況だ」と訴えがありました。現場で求められている医療・福祉・教育現場などで働く方々への費用負担なしのPCR検査の実施、現場の消毒薬やマスク、使い捨て手袋、防護服などの支給も急ぐことが必要です。予算も人も増やす対応を早急に行うことが求められています。医療や福祉の過酷な労働環境を改善し、医療機関の減収補填、積極的なPCR検査の拡充を国の財政負担で行なうことを引き



続き求めていきます。

保健所の正規職員を早急に増やし予算も大幅に増やすべきです！

保健所法が廃止され、地域保健法が制定されました。全国に852箇所あつた保健所は、2020年4月現在469箇所と大幅に減つています。これまで保健師や検査技師など専門職を減らし、非常勤や会計年度職員をふやしてきました。これでは、住民の命と健康を守り、感染拡大防止に取り組むことはできません。

これから、増える感染者への対応で、保健所の役割はますます重要になります。

保健所は患者の搬送、感染経路の把握、陽性者の健康観察など多岐にわたる業務内容です。保健所の正規職員を増やし、予算も大幅に増やすべきです。

8月30日

村岡新駅予定地視察

はたの君枝衆議院議員を迎え、加



アイパーク湘南・ヘルスケアイノベーションセンターの正面(旧武田薬品湘南研究所)

藤なを子前議員、藤沢市・鎌倉市民の皆さんと村岡新駅建設予定地村岡・深沢地域の現地視察を行いました。

県知事・藤沢市長あての村岡新駅設置中止を求める署名活動を行っています

橋上駅舎の建設予定地を現地視察

JR東海道線を南北に通行する跨線橋です。道幅が狭く、車は片側一方通行で、人も通行するので危険です。この跨線橋から下、大船方面の場所に村岡公民館が移転を予定しています。



現地視察するはたの衆院議員、加藤なを子前県議、藤沢市議団など

藤沢駅を出発してすべにプリー

キをかけ2分を着く新駅。さらに大船駅まで2分です。「朝の東海道線のダイヤはどのようになるの？」など、疑問の声が寄せられています。

新駅ありきで、ヘルスイノベーション、未病産業支援が目的の開発は中止すべきです。東海道線の駅よりも、住民のための生活道路の整備、コミバスの運行、高齢者の無料バスなど移動支援、コロナ感染症対策、災害対策など、市民に望まれていることを優先すべきです。

特別支援学校の増設をめぐって

特別支援学校の過密化・過大規模化を解消するため、国に対して特別支援教育の制度化に関する意見や要望が都道府県・指定都市教育委員会からだされています。

特別支援学校（養護学校）は都道府県に設置義務があります。これまで共産党県議団は、養護学校の過大規模化・過密化の実情を踏まえ、整備の必要性を繰り返し求



県立藤沢養護学校

めてきました。ところが県は「検討会の報告」にゆだねるという回答でした。今年3月の検討会の最終まとめでは、「設置義務のある県と、義務教育段階の教育を担う市町村が協力して具体的な検討を進めていくことが必要である」との内容であり驚きました。でもそこであるなら、設置義務を担う県こそ市町村が望んでいるように特別支援学校を県の責任で増やすべきではないでしょうか？

肢体不自由児のお母さんたちが

ら、「藤沢市の養護学校に通えず

横浜や茅ヶ崎、鎌倉に長い時間バスに乗って通わなければならない。なんとかしてほしい」藤沢養護学校を卒業した青年からは、「学校も古くなり暖房がこわれたり、学校にプールがない。後輩たちが喜ぶ学校にしてほしい」と声が寄せられています。子どもたちの安全、命と健康を守り、発達の保障と等しく教育を受ける権利を保障することは急務です。国の設置基準待ちではなく、県として老朽化している校舎の建て替えも含め特別支援学校の新たな整備計画を早急につくるべきです。適正規模の学級運営で子どもたちひとり一人が大切にされるよう引き続き県に働きかけ、子どもたちが地域の特別支援学校に通えるよう学校を増やすために皆さんと力を合わせて引き続き頑張ります。

